

マーケット・レター

2026年6月8日

フランクリン・テンプレトン・ジャパン シニアリサーチアナリスト 和泉 祐一

民間投資の拡大が豪州のGDPの押し上げに寄与

豪州の2026年1-3月期の実質GDPは、前期比+0.3%と緩やかなプラス成長となりました。一方、景気のトレンドを示す前年比での経済成長は+2.5%となり、**GDPの内訳を見ると内需中心に豪州景気が底堅さを維持していることが示されました**（図1）。

1-3月期はイラン情勢の不透明感が高まる中でも、GDPの過半数を占める個人消費は安定を維持しました。加えて、豪州景気の押し上げに寄与したのは**民間投資の拡大**でした。特に**加速するデータセンター投資が豪州景気のけん引役として台頭**しつつあります。

加速する豪州のデータセンター投資

豪州におけるデータセンターへの投資は2025年より拡大傾向にあります。2026年1-3月期には**データセンター関連の新規設備投資額は前年比約2.8倍の85.9億豪ドル（約1兆円*）へ急増し**、豪州の名目GDPの1.2%に相当する規模に成長しています（図2）。

豪州では、データセンターで使用される半導体やハイテク機器の多くを輸入に依存しているため、製造業への恩恵は限定的とみられます。一方、**データセンター投資の拡大は、不動産・産業インフラ、通信、電力などの周辺セクターに幅広い恩恵をもたらすことが期待されます**。

豪州がデータセンター拠点として見直される背景

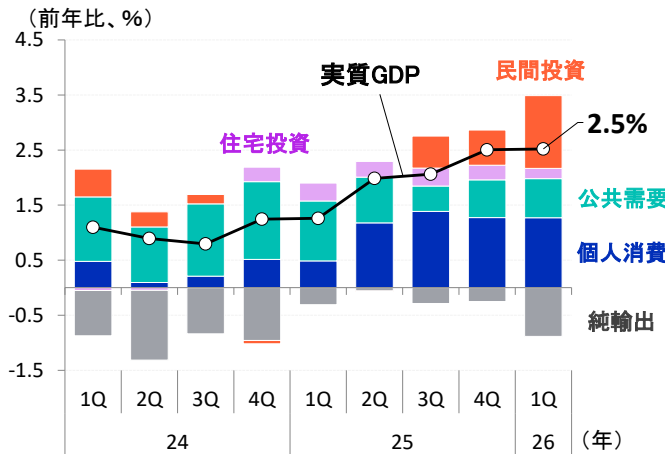
足元でも、米大手AI開発企業が豪州で大規模なデータセンター投資を検討していると報じられるなど、**海外企業や投資家の間でデータセンター拠点としての豪州の魅力が改めて見直されつつあります**。豪州のデータセンターの優位性として、以下の3点が挙げられます。

第一に、**地政学的な安定性の高さ**です。豪州は中東情勢などの地政学リスクによる直接的な影響を受けにくく、政治体制も安定しています。第二に、**土地やエネルギー資源へのアクセスのしやすさ**です。豪州は天然ガスなどの従来型資源に加え、太陽光や風力などの再生可能エネルギーの導入余地が大きい市場であると考えられます。

第三に、**アジアの巨大市場に近い地理的な優位性**です。アジアではAIの普及を背景にデータ処理需要が急速に増加しており、データセンター需要も中長期的な拡大が見込まれます。データセンター数の面で豪州はアジア第3位の規模を有しており、アジアでのデータセンターの分散先として今後さらに注目が高まる可能性がありそうです（図3）。

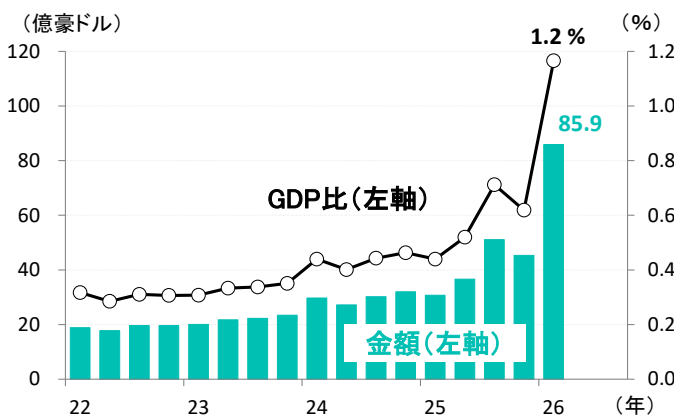
(*）1豪ドル=114.4円換算（2026年5月末）

図1：豪州の実質GDP成長率の寄与度分解



(出所) 豪州政府統計局 (期間) 2024年1Q~2026年1Q

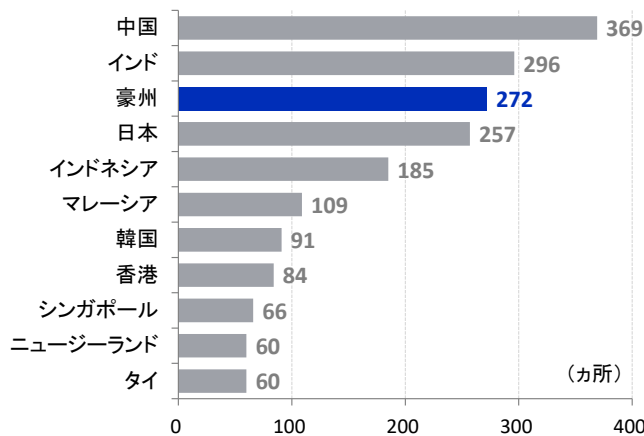
図2：豪州のデータセンター関連の新規設備投資額



(出所) 豪州政府統計局 (期間) 2022年1Q~2026年1Q

(注) 情報通信・メディア・セクターの新規設備投資額 (名目値)。

図3：アジア太平洋地域のデータセンター数



(出所) Statista, Data Center Map (注) 2026年4月時点。

●当資料は、フランクリン・テンプレトン・ジャパン株式会社(以下「当社」)が情報提供を目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また、投資勧誘を目的とするものではありません。●当資料は、当社が信頼性が高いと判断した各種データ等に基づいて作成したものです。●当資料の完全性、正確性を保証するものではありません。●当資料に記載されたグラフやデータ等は、過去の実績または予測であり、将来の市場環境の変動等を示唆あるいは保証するものではありません。●当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。●当資料に指数・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権、その他一切の権利は、その発行者に帰属します。●当資料は当社の許可なく複製・転用することはできません。●フランクリン・テンプレトン・ジャパン株式会社(金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第417号) 加入金融商品取引業協会：一般社団法人資産運用業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会